

平成31年(令和元年)
第Ⅱ回短答式試験
管理会計論

講評と各問題の解説

Produced by M.Ikebe

1 今回の出題の特徴

(1) 出題構成等

		H30 I	H30 II	H31 I	H31 II
計算・融合		7問 (55点)	8問 (60点)	8問 (60点)	8問 (60点)
理論		9問 (45点)	8問 (40点)	8問 (40点)	8問 (40点)
合計		16問 (100点)	16問 (100点)	16問 (100点)	16問 (100点)
平均	管理	49.4%	45.8%	44.1%	?
	全体	49.7%	45.9%	44.2%	?
ボーダー		70.0%	64.0%	63.0%	?

出題構成は過去2回と同じ

(2) 難易度等

	原価計算論点	管理会計論点
計算	横ばい	やや易化
理論	横ばい	横ばい

- ✓ 計算は前回同様に非常に難しい
- ✓ 理論の難易度は例年並み

6割を確保するのは難しいレベル

2 各問題の検討

(1) 前半(原価計算論点)

問題	出題論点	種別	配点	正解	ランク
1	費目別計算	理論	5	6	A
2	費目別計算	計算	8	6	C
3	製造間接費	理論	5	5	B
4	部門別計算	計算	7	4	A
5	総合原価計算	理論	5	2	A
6	総合原価計算	計算	8	3	C
7	標準原価計算	理論	5	1	A
8	標準原価計算	計算	7	5	A

問題2

費目別計算 (ランクC)

1 直接材料費の計算…ア

主要材料

月初有高 200kg 2,160,000	当月出庫 1,920kg 21,510,000
当月購入 2,000kg 22,100,000 400,000 <hr/> 22,500,000 (@11,250)	1,720kg 19,350,000
	棚卸減耗 450,000
	月末有高 2,700,000

2 労務費の計算

借方	金額	貸方	金額
賃金	15,120,000	現金	15,840,000
従業員諸手当	3,864,000	社保預り金	1,344,000
		所得税預り金	1,800,000

直接工賃金

支払賃金 15,120,000	前月未払 2,880,000
	消費賃金 (要支払額) 14,400,000
当月未払 2,160,000	

÷ 就業時間4,500h

@3,200

3 製造原価実際発生額の計算…イ

費目	計算式	金額
直接材料費		21,510,000
直接労務費	@3,200 × 3,150h	10,080,000
製造間接費		
補助材料費		2,499,000
間接賃金	@3,200 × (4,500h - 3,150h)	4,320,000
従業員諸手当		3,864,000
棚卸減耗費	450,000 + 51,000	501,000
減価償却費		10,529,600
間接費計		21,713,600
製造原価合計		53,303,600

4 製造間接費の計算…ウ・エ

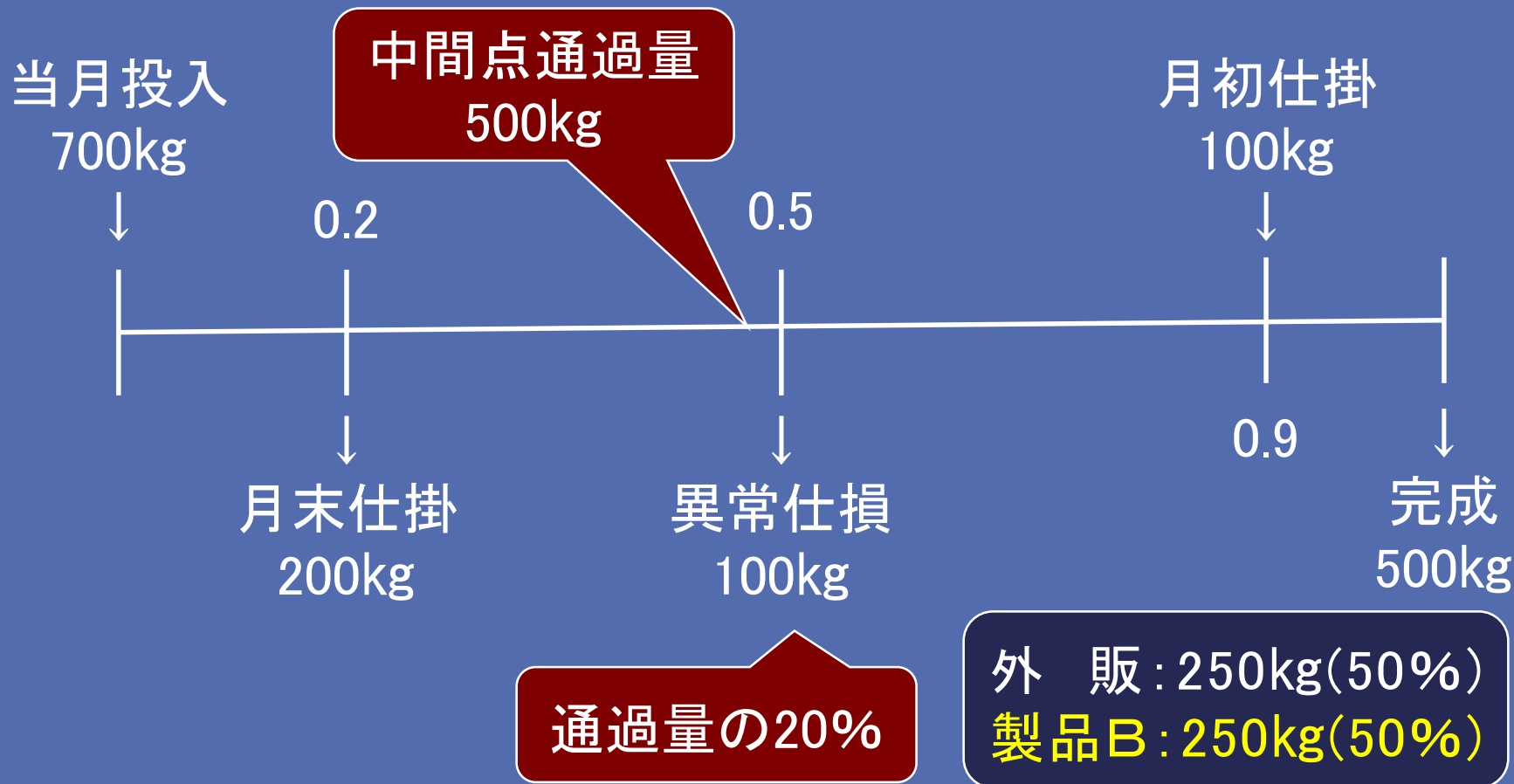
製造間接費

実際発生額 21,713,600	予定配賦額 22,176,000
配賦差異 462,400	直接労務費 × 220%

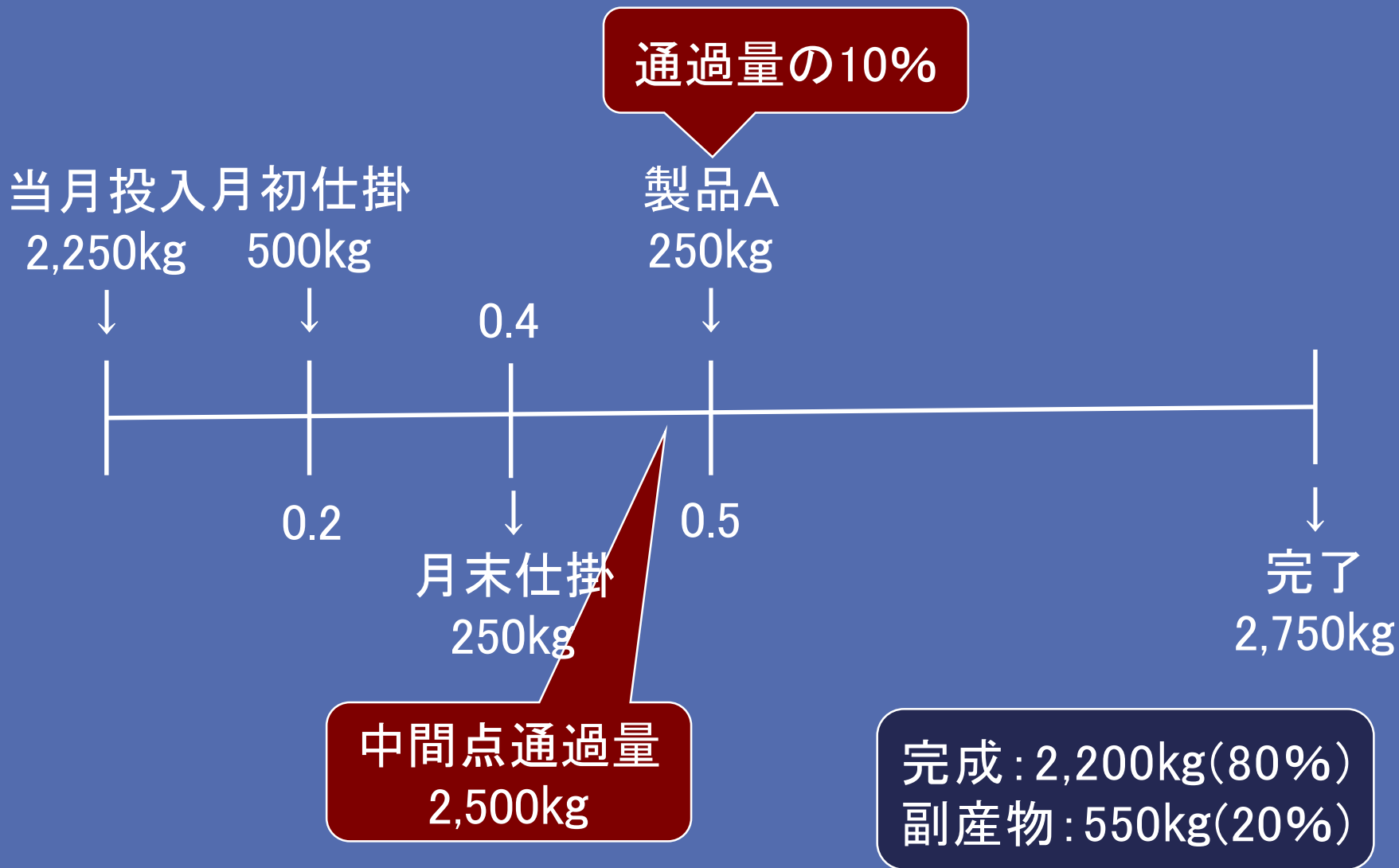
実際 < 予定より有利

問題6 総合原価計算 (ランクC)

1 製品Aの数量データ



2 製品Bの数量データ



(2) 後半(管理会計論点)

問題	出題論点	種別	配点	正解	ランク
9	管理会計の基礎知識	理論	5	4	A
10	企業価値評価	計算	7	3	A
11	差額原価の分岐点分析	計算	7	4	C
12	ABC	理論	5	1	B
13	原価改善	計算	8	2	C
14	追加加工の可否の意思決定	計算	8	2	B
15	設備投資の経済性計算	理論	5	3	B
16	分権組織とグループ経営	理論	5	6	A

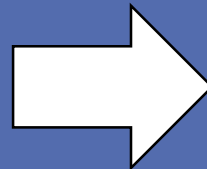
問題11

差額原価の分岐点分析（ランクC）

$X = 81,600$ (個) → A案: $60X + 7,812,000$
→ B案: $80X + 6,180,000$
C案: $200X + \underline{2,040,000}$ ← $X = 34,500$ (個)

選択肢より30,000個以上
であることは明らか

変動費率は $A < B < C$
固定費額は $A > B > C$



C → B → Aの順に有利

問題13

原価改善（ランクC）

1 原価改善目標額の計算

項目	金額	比率
売上高	228,000	100%
変動費	114,000	50%
貢献利益	114,000	50%
固定費	111,180	48.7...%
営業利益	2,820	1.2...%

原価改善目標額15,420

目標営業利益	18,240	8%
--------	--------	----

2 原価改善目標額の割当

原価改善目標額15,420

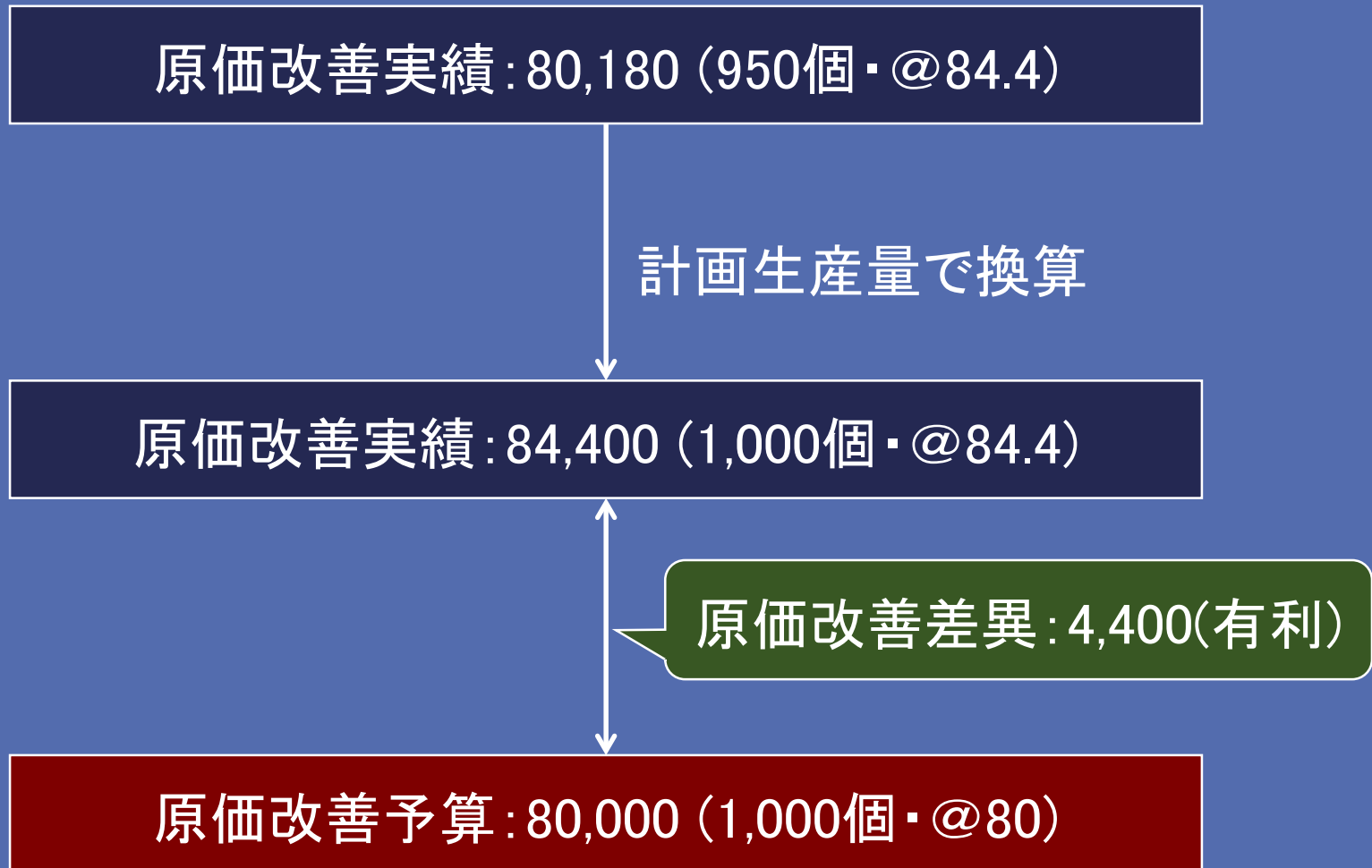
固定費削減額4,020
 変動費削減額11,400 (@0.95) 削減率10%



	管理可能費	係数	積数	目標額
P	2,000	1.2	2,400	2,400
Q	2,160	1	2,160	2,160
合計	4,160		4,560	4,560

→ α : 960(40%)

3 α 部の原価改善差異の分析



問題14

追加加工の可否の意思決定（ランクB）

1 β 製品とB製品の分析

項目	B製品	β 製品	B - β
製品売上高	@8,500 × 7,200個	@6,000 × 8,000個	13,200,000
仕損品売上高	@ 400 × 800個	—	320,000
追加加工費	@1,500 × 8,000個	—	12,000,000
変動販売費	@ 600 × 7,200個	@ 400 × 8,000個	1,120,000
関連利益	45,200,000	44,800,000	400,000

追加加工による増分利益

2 γ製品とC製品の分析

項目	C製品	γ製品	C-γ
製品売上高	@6,000 × 4,750個	@4,000 × 5,000個	8,500,000
仕損品売上高	—	—	—
追加加工費	@1,000 × 5,000個	—	5,000,000
変動販売費	@ 600 × 4,750個	@ 400 × 5,000個	850,000
関連利益	20,650,000	18,000,000	2,650,000

追加加工による増分利益

増分利益合計: $400,000 + 2,650,000 = 3,050,000$

3 全体を振り返って

- ✓ 計算はA3問を確実に正答したい
- ✓ 理論は2ミスにとどめることが十分に可能
- ✓ 合格ラインは55～60点程度と予想
- ✓ 全体の予想ボーダーの公表は5/29